

## 市街地のマンションにおけるアカマダラハナムグリの拾得記録 2 例

未長晴輝<sup>1)</sup>・松田隆嗣<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 〒 708-0006 岡山県津山市小田中 1309-8 ハビネス小田中 B 102 号室

<sup>2)</sup> 〒 690-0823 島根県松江市西川津町 852-3 メゾンサヴァン 403 号室

*Anthracophora rusticola* Burmeister, 1842 collected at the high-rise condominium in urban areas of Okayama and Shimane Prefs.

Haruki SUENAGA and Takatsugu MATSUDA

アカマダラハナムグリ *Anthracophora rusticola* Burmeister, 1842 は、コガネムシ科ハナムグリ亜科に属する甲虫の一種で、成虫は 4 月下旬から 9 月頃まで出現しクヌギやコナラなどの樹液に集まる(酒井・藤岡, 2007)。幼虫はおもにワシタカ類やコウノトリ、カワウ、ハシボソガラスなど鳥類の巣の中で生育し、オオタカの営巣木の根元近くの落葉層下で見つかった事例もある(石川ほか, 2004; 越山, 2012; 越山, 2014; 楨原ほか, 2004; 永幡ほか, 2013; 那須ほか, 2010; 佐藤ほか, 2006; 山本, 2010)。本種は「岡山県版レッドデータブック」と「改訂しまねレッドデータブック」でともに準絶滅危惧種に指定されている一方で(奥島, 2010; 島根県, 2014)、希少と考えられているのは野外での発見率の低さによるものなのか、個体数の減少によるものなのかははっきりしないという指摘もある(山田, 2007)。

この度、筆者らはマンションの上階部にて本種を拾得したので、生態知見として報告したい。

1♂, 島根県松江市西川津町, 6. VI. 2014, 松田隆嗣採集・保管。

1♀, 岡山県倉敷市老松町, 2. V. 2014, 未長晴輝採集・保管(図 1)。

島根県の個体は、マンションの最上階(地上 10 ~ 11 m)の通路で仰向けに落ちていた個体を午後 1 時頃に拾ったものである。採集直後にはプラスチックケース内で活発に飛翔していたことから、飛来後間もない個体を得たものと思われる。当マンションは松江市街の中心部から北東約 2 km に位置する。島根半島東部の丘陵地帯である松江北山から約 3 km 離れ、半径 1 km 以内には島根大学や金崎古墳群をはじめとした小規模な緑地や森林が点在している。

岡山県の個体は、マンションの最上階(地上約 40 m)の非常階段(図 2)で仰向けに落ちていたの



図1. 倉敷市産アカマダラハナムグリ。



図2. 下から見上げたマンションの階段。

を拾ったものである。拾得時は瀕死状態であった。当マンションは倉敷市街の中心部に位置しており、北方にある福山系や南方にある種松山からは約3 km 最寄りの小規模な山林である向山からも1.2 km 離れている。

この倉敷市のマンションの階段や非常階段では、過去にもカナブンやシロテンハナムグリ、シラホシハナムグリ、ナミハナムグリ、コアオハナムグリ、アオヒメハナムグリなどのハナムグリ類のほか、アブラゼミやクマゼミ、ツクツクボウシ、キマダラカメムシ、クロタマムシなどが採集されている(末長, 2002; 2009; 未発表)。さらに、市街地の中心部にいるとは考えにくいハルゼミやオオヨツスジハナカミキリなどが得られたこともある(末長, 2001; 2003; 2004)。これらのことは、市街地にある高層マンションが高空を飛翔移動する昆虫に対する巨大な衝突板トラップとして機能することを示しており、採集された種の移動の時期や高度のデータを得る良い観測地点となると考えられる。とすれば、本報で示した2件の採集記録は、中国地方のアカマダラハナムグリが5-6月に高度10-40 mを飛翔し、市街地上空を横切るようなキロメートル単位の長距離移動も行っていることを示す生態知見であると解釈できる。この解釈は、越山ほか(2012)が岡山県美作市でのバナナトラップ調査で示した、本種の活動(活発な探餌行動)のピークが5月にあるという知見とも矛盾しない。

永幡ほか(2013)は東北地方~中国地方で得られたアカマダラハナムグリのミトコンドリアDNAの多型を解析し、日本における本種のDNA多様性が高いことを示した。特に、岡山県の同所で同時に得られた5個体が全て互いに異なる塩基配列であったことから、少なくともこの地域の個体群は、多様なDNAタイプを包含していてもそれぞれが維持されるほど大きいであろうと推察している。本報で示された本種の長距離移動の習性は、遺伝的交流のある地域個体群を大きくしうる要因のひとつと考えられ、永幡ほか(2013)の推察を補強するものと言えよう。

なお、倉敷市内におけるアカマダラハナムグリの過去の記録としては、当マンションから約1.2 km離れた向山と約1.5 km離れた鶴形山でそれぞれ1960年代と1986年に採集されているほか、1993年に市の南部に位置する由加山で採集されたのを最後に得られていない(青野, 1997; 青野・近藤, 1986; 奥島, 1993)。したがって本報の採集記録は、倉敷市内での20年ぶりの再発見となる。また、島根県本土では本報が3例目の記録となるようで、いずれも松江市の島根半島地域での記録である(中

村, 1972; 越山・松田, 2012)。

末筆ながら、報告を助めてくださった岡山県赤磐市の越山洋三博士に厚くお礼申し上げる。

#### 引用文献

- 青野孝昭, 1997. 1960年代倉敷市の丘陵地, 沖積平野で採集された甲虫類. すずむし, (132): 23-27.
- 青野孝昭・近藤光宏, 1986. 街中の緑地, 鶴形山の昆虫. 倉敷市立自然史博物館研究報告, (1): 41-73.
- 伊賀正汎, 1955. あかまだらこがね. 原色日本昆虫図鑑(上)甲虫編, 増補改訂版. 保育社, 大阪, p. 103.
- 石川 均・新井 真, 2004. アカマダラハナムグリの一生態について. 甲虫ニュース, (148): 13.
- 越山洋三, 2012. オオタカ宮巢木の根際で採集されたアカマダラハナムグリの幼虫. すずむし, 147: 74.
- 越山洋三・宮田 亮・宮竹貴久, 2012. 岡山県美作市のオオタカ宮巢地におけるアカマダラハナムグリの活動時期(コウチュウ目, コガネムシ科). 倉敷市立自然史博物館研究報告, (27): 9-12.
- 越山洋三, 2014. 希少種アカマダラハナムグリが棲む鳥の巣. 昆虫と自然, 49(4): 9-12.
- 越山洋三・松田隆嗣, 2012. 松江市でアカマダラハナムグリを採集. すかしば, (59): 36.
- 横原 寛・阿部 學・新里達也・早川浩之・飯島一浩, 2004. ワシタカの巣で生活するアカマダラハナムグリ. 甲虫ニュース, 148: 21-23.
- 永幡嘉之・越山洋三・梅津和夫・後藤三千代, 2013. ハシボソガラスの巣で発育したアカマダラハナムグリ—DNA解析による土壌内の蛹殻および幼虫死体の種同定—. 昆虫(ニューシリーズ), 16(2): 104-112.
- 中村 徹, 1972. アカマダラコガネを松江市内で採集. LONGICORN, (1): 15.
- 那須義次・村濱史郎・三橋陽子・大迫義人・上田恵介, 2010. コウノトリの巣から発見された鞘翅目と鱗翅目昆虫. 昆虫(ニューシリーズ), 13: 119-125.
- 奥島雄一, 1993. アカマダラコガネの再発見. 自然史博物館だより, (12): 1.
- 奥島雄一, 2010. アカマダラハナムグリ. 岡山県版レッドデータブック2009, 動物編. 岡山県, p. 194.
- 酒井 香・藤岡昌介, 2007. アカマダラハナムグリ. 日本産コガネムシ上科図説第2巻食葉部1. 昆虫文献六本脚, 東京, p. 95.
- 佐藤隆士・鈴木祥悟・横原 寛, 2006. アカマダラハナムグリのハチクマ巣利用. 昆虫(ニューシリーズ), 9(2): 46-49.
- 島根県, 2014. 改訂しまねレッドデータブック2014動物編~島根県の絶滅のおそれのある野生動物~. 島根県, 317 pp.
- 末長晴輝, 2001. 倉敷市におけるオオヨツスジハナカミキリの追加記録. しぜんしくらしき, (39): 3.
- 末長晴輝, 2002. シラホシハナムグリを4月4日に採集. しぜんしくらしき, (43): 16.
- 末長晴輝, 2004. 岡山県産甲虫類の記録. しぜんしくらしき, (51): 6-8.
- 末長晴輝, 2009. オキナワコアオハナムグリの分布調査(続報). しぜんしくらしき, (68): 9.
- 山田辰美・新井 真・松岡陽市・市川文俊, 2007. 猛禽類の巣で繁殖するアカマダラハナムグリの生息環境. 富士常葉大学研究紀要, 7: 213-219.
- 山本正志, 2010. 滋賀県伊崎半島のカワウコロニーの巣でアカマダラハナムグリ発生. 昆虫と自然, 45(12): 37-39.

(2014年11月26日受領, 2015年2月17日受理)